

第

1

章

社会人になるにあたって

まずは、社会人なるための
心構えについて学んでいきましょう！



1 社会人としての行動

不安や疑問、期待と憧れ

緊張や不安を抱きながらの就職活動を終え、あなたはいま、ようやく念願の「内定」通知を受け取りました。これで、学校を卒業したあと、あなたが活躍する職場も決まり、あなたもこれから、社会人として世の中に登場していくわけです。

内定通知を受け取ると、「これからがんばろう!」とか「私の人生はこれから始まるのだ!」とやる気がみなぎり、社会人になる憧れや期待が胸いっぱいに広がります。

でも、その反面、「会社で働くということはどういうことなのだろうか」とか「自分でもうまくやっていけるのだろうか」といった、さまざまな疑問や不安もわいてきます。

ではいったい、会社で働くということはどういうことなのでしょう。「バリバリ働いて、意欲的に仕事に取り組みます」と、就職活動

の場では答えてきたかもしれません。会社も、そうした積極的な態度を評価して、あなたに内定通知を出したのでしょう。しかし、会社の一員として働く社会人は、それぞれの会社にある規則を守り、上司に従い、なおかつ、自分の仕事に責任をもって最後まで遂行することがもとめられます。「バリバリ働く」といっても、上司からの指示もありますし、いっしょに働く人との協力も必要なのです。

ひとりよがりの行動は禁物

あなたの意欲的な仕事への情熱はよく理解できますが、会社はあなたひとりの力で動かせるものではありません。会社は、先輩や上司、またその上にいる部長や重役、社長といった、大勢の人々が力を合わせて事業を運営している集団組織なのです。

ですから、「自分だけがバリバリ仕事をすればいい」という、ひとりよがりの考え方や

行動は、会社ではつつしむべきですし、個人プレーのような行いは、注意されることでしょう。

いままでの学校の勉強なら、ひとりでもできましたが、会社の仕事は、そういうわけにはいきません。職場には、あなたを見守り、指導し、ときには叱責する先輩や上司、同僚がいます。

たくさんの人々の要望に応えられるように、あなたは、これから仕事を通していろいろなことを学んでいかなければなりません。それは、自分を磨く実践勉強でもあり、また、生涯にわたる人生勉強でもあるのです。

あなたがいかにして社会人としての人生を歩むか、ということは、いいかえれば、あなた自身の人生を歩むことを意味しています。

自分の意見、会社のしくみ

会社には、会社の規則があり、社会には、

さあ、がんばるぞ！ 社会人デビューだ!!

内定をもらって、会社で働くことへの期待と不安でいっぱいかもしれません。でも、落ち着いて。自分の立場をわきまえた行動が求められています。



仕事をとおして学び 自分を磨き続ける

ひとりよがりの行動は慎みましょう。会社組織の一員としての行動が求められます。



常識があります。ですから、あなたが社会人になれば、目に見えない束縛に従って歩まなければならない一面もあります。

実際に、あなたは正しいことをしているつもりなのに、それに応じた評価を受けられないこともあります。それどころか、「こんなことをして、なにを考えているのか」と上司から叱られることもあるでしょう。

そのようなとき、あなたならどういう態度をとりますか。

素直に「すみません」と謝りますか。それとも、「いいえ、私は正しいと判断して行いました」と開き直りますか。

自己主張をすることも、もちろん必要なことです。しかし、会社のなかでは、「私は正しいのだ」というだけでは、受け入れられません。上司が組織の長としての判断をし、あなたは上司の指示にしたがい仕事を進めることが、基本的なしくみになっているのです。自分の意見を言いたいときには会議で述べ

たり、レポートに書き込んだりすることもできるでしょう。直接、意見を上司からも求められたとき、発言しても遅くはないでしょう。これは、ほんの一例ですが、上司から注意を受けたら、まずは自分の行動や発言を振り返り、謝るべきときには素直に謝るべきでしょう。

自分の立場をわきまえて行動することが、社会人として必要な態度といえるでしょう。

2 改め直したい学生気分

学生と社会人のギャップ

自分の立場をわきまえる、とは、どういうことでしょうか。

これまで、あなたは、親や先生を除けばほとんど同世代の友人との人間関係のなかで生活してきたのではないのでしょうか。では、社会人になるとどうでしょうか。親と同世代の上司、自分よりも年下の社員もいるかもしれません。

いままでは、気の合った友達と、同世代に共通する感覚で自分の意見を言い、行動してきたことでしょうか。育ってきた環境や時代も似通っていて、あなたのものの考え方も友人はすぐに理解できて、「そっじゃないよ」と反論されても、それほど腹も立たなかったかもしれません。友人と意見が合わなくても、「自分は自分なのだ」という自我を学生時代には守り通せたのではないのでしょうか。

たしかに、クラブ活動やサークルにも先輩はいます。しかし、社会には歴然とした秩序があって、それはサークルにおける先輩後輩の上下関係の構造とは比べ物にならないくらい厳しいものなのです。

あなたよりも早く社会人になった先輩は、社会人になるあなたに「学生気分をはやく忘れなさい」とアドバイスします。学生と社会人のギャップをいちはやく感じている先輩たちが、「学生時代は楽しかった」となつかしむ声をあなたも聞いたことがあるでしょう。

この声はある種のあなたへの警告なのです。社会の先輩は「いまのうちに青春を楽しんでおきなさい。そして社会に出たら、社会人として自覚をもつように」と伝えたいのです。

学生は、井の中の蛙であり、社会という大海を知らない身であると、あなたが謙虚に自分を見つめ直せば、徐々に学生気分は消え

ていくことでしょう。

自分に厳しく、他人にはやさしく

たとえばあなたが大学生であれば、大学というところは教養や学問を学ぶところで、講義以外の時間には、多いに自由を楽しみ、人間性を高め、豊かな感性を養い、成長していく場であつたでしょう。学校で学ぶことは、人生のうえでも大いに意義のあることです。

ただ、ありあまるほどの自由を手に入れるなかで、自分を甘やかしてしまっている部分もあるかもしれません。そういう学生気分のまま仕事に臨むとどうなるでしょう。

たとえば、友だちと待ち合わせている約束があります。そろそろ出かけなければならぬ時間になると「5分くらい遅れても大丈夫だろう」と、出かける時間をついのばしてしまつて。

あるいは、待たせる相手の性格を考えて、

学生時代の自由な気分では 社会人は務まらない！

学生ならば許された失態も、社会人になると取り返しがつかないことになるかもしれません。気持ちを引き締めて！



5分くらい遅れても大丈夫… じゃない！！

友人との待ち合わせと違い、ビジネスでは時間に遅れるのは致命的です。



「あの人はふだん怒らないし、やさしいから遅れても待っていてくれるだろう」と、自分の都合のよいように考えるくせ。

これが社会人であればどうでしょう。

入社したてのころは、周りの人があなたに気をつかって、あなたが失敗しても大目に見てくれます。上司も「無理しなくてもいいよ」とやさしく接してくれるでしょう。しかし、甘く考えていると、いつか必ず「なにをしているんだ！」と叱責をくらう羽目になり

ます。上司を甘くみてはいけません。そして、他人を軽くみると、社会人として大きな失態を招くことになります。

自分に厳しく、他人にはやさしくが社会人の基本です。

アルバイトと違い、責任ある立場

また、学生時代にアルバイトをした経験のある人も多いでしょう。

アルバイトは働きたい時間にできる仕事を

選べます。社員に指示されたとおりに与えられた仕事をこなす、いわばサポート役です。社員以上の仕事への責任や誠実さ、忍耐や我慢はもとめられません。気に入らなければ、すぐにやめても迷惑とも思われなかったかもしれません。

ところが、社員という立場になれば、そうはいきません。入社後に、「仕事がつらいからやめたい」と簡単に言い出したりするのは考えものです。